

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870500638
法人名	特定非営利活動法人 ワーカーズ・コレクティブひと
事業所名	グループホームタ日館
所在地	愛媛県新居浜市萩生2720-1
自己評価作成日	平成24年11月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成24年11月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

民家を改修し、宅老所からスタートし介護保険開始時よりグループホームになりました。現在は女性6名で敬いいたわりながら暮らしています。本当の家族のように悲しいことには涙し、喜びは分かち合い、時にはいさかきもあります。介護度が上がっていく中お互い受け入れて、住み慣れたところで馴染みの人に囲まれて、最期までのんびり気ままに暮らすお手伝いができればなあと考えています。利用者様やご家族・ワーカーが何でも話し合え、お互いを認めあいながら接することができるように実践していきたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

●事業所は、民家改修型で敷居や段差のある造りで、昔なじみの外廊下の間取りになっている。間口のうち半間分は敷居のまま、半間分は段差をなくして、車いすが通りやすいようにされていたり、風呂場は補助の板を置き、段差解消に工夫されている。居間のテーブルの下は、ホットカーペットを敷いて、足元が暖かく過ごせるようになっている。
●献立は、当日の食事担当職員が、利用者の希望や冷蔵庫の中の材料に応じて決めておられ、事業所で食事を作っておられる。煮干で出しを取り、食材は地元の食材・国産品をできるだけ使用するよう努めておられる。利用者からの希望で、お好み焼きを焼いたり、お寿司を出前することもある。調査訪問時には、移動販売車が来て、利用者は、おやつのあるぱんやジャムパン、クリームパン等、それぞれにお好きなパンを買っておられた。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム夕日館

(ユニット名) _____

記入者(管理者)

氏名

高橋 光子

評価完了日

24年 11月 12日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価)</p> 『住民参加型福祉』を目指す法人の理念に添い、事業所の理念も全職員で作っている。『のんびり、気ままに過ごしましょう。～住み慣れたところで最期まで～』理念は事業所に貼り出し、心身状態が悪化した場合でも家族が望めば希望に沿った支援ができるように実践している。 <p>(外部評価)</p> 理念が、日々実践できるよう、台所に貼り出し、又、毎日、職員が目にする業務日誌にも明記されている。利用者個人のケアプランの用紙やカンファレンス用紙にも理念を明記し、職員は、「利用者が、普通の事を普通に行えるように」心がけてケアに取り組まれている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	<p>(自己評価)</p> 自治会に加入している。清掃活動・祭りの寄付など協力している。夏休みには中高生がワークキャンプで訪れる。 <p>(外部評価)</p> 今月、近くにある法人デイサービスが開設10周年記念行事を開催された際には、事業所も参加して、地域の方達とふれ合われた。地域の方が事業所にも立ち寄っていただけるよう企画して、手作りのおみやげを渡したり、ぜんざいを振舞われた。又、職員は、「福祉用具の紹介」の手伝いをされたり、「介護相談ができる」こと等もお知らせされた。当日は、地域の小学校からテントをお借りしたり、学校にポスターを貼らせてもらったり、又、チラシを子ども達に配布してもらおう等、協力していただいた。そのようなかわりの後、若いお母さんから、「子どもが作ったプレゼントをおばあちゃんにぜひ渡したい、と言っているのですが、いつ行ってもよいのですか？」と、問い合わせがあったようだ。理事長は、記念行事を行うことで、「地域の方に事業所のことをさらに知ってもらえるよい機会となった」と感じておられ、今後、「子どもや若い方と、もっとうつながりを持ちたい」と思っておられる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価)</p> 自治会清掃やチラシ配り時などの時にも相談を受け、又、支援している法人内の理事長、介護支援専門員にも相談している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 評価結果は運営推進会議で必ず報告し、取組み状況を説明する。頂いた質問・意見は職員に報告し、運営推進会議でサービス向上のためできることを提供し合う。</p> <p>(外部評価) 地域ボランティアの方やご家族、訪問看護事業所の方にも参加していただき、会議を開催されている。会議では、事業所の行事等の報告をされたり、会議と併せて避難訓練を実施されている。9月には、敬老会を兼ねて食事会を行われた。</p>	<p>理事長は、「記念行事時のテントのお礼と一緒に、学校関係者にも会議参加を呼びかけたい」と話しておられた。又、会議の内容について、「事業所からの報告が多く、参加者からの意見は少ない」と感じておられ、「メンバーと意見のキャッチボールがしたい」と話しておられた。事業所は、地域との交流も広がってきており、今後さらに、参加しやすい会議の持ち方やすすめ方等、工夫して取り組みを重ね、事業所ならではの会議に取り組んでいかれてほしい。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営に関する指摘・相談の行いやすい関係ができています。福祉課とも連携し生活保護の方の受け入れもしている。包括からは運営推進会議に出席して下さったり介護相談員が訪問してくれる。事故が起こった場合の相談など、連携が密に取れている。</p> <p>(外部評価) 社協からの依頼で、中・高生2～3名のワークキャンプを2泊3日で受け入れておられる。生徒は、利用者とお話したり、食事作り等、ケアを体験しながら利用者とお話されている。3ヶ月に1回、2名の介護相談員が来られ、利用者とお話されている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 身体拘束をしないケアに全員で取り組み、どのような時どのようなレベルで身体拘束に当たるのか、内部研修をして共有している。</p> <p>(外部評価) 玄関には鍵をかけず、利用者は自由に出入りできるようになっている。玄関を入ったところの上がり口の戸には鈴を付けて、開閉時に鳴るようになっている。職員は、内部研修時に、「身体拘束について」勉強されている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待の内容を全員で共通理解できるように内部研修を行い、職員同士が相互に心理的な虐待の可能性などを指摘し合っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修の参加や勉強会はしているが、まだ、制度を必要とする人はいない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 管理者及び計画作成者が契約書・重要事項説明書・運営規定・情報提供票などの内容に沿って説明する。その後家族等の不安や疑問をお伺いし、個別で説明し納得していただいている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関に意見箱を設置し利用者や家族からの意見や要望を職員と法人理事長と話し合って運営に反映させている。 (外部評価) 法人デイサービスの10周年記念行事の際には、すべてのご家族が参加され、テント張り等に協力してくださった。又、駐車場の整理やバザーの販売等も手伝ってくださった。運営推進会議には、4～5名のご家族の参加があり、「会議日程」の希望や「研修で良いのがあればしてほしい」等の要望が出されている。「家族会」時、管理者は、ご家族から意見をいただけるように、「一言でも言ってもらったら、ありがたいです」と話されている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価)</p> <p>事業所会や定例会で運営・方向性それぞれの意見を話し合っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>月一回の職員会議時には、利用者個々のケアの見直しや行事計画等について話し合われている。洗面台では、水しか使えなかったが、「冬場は特に、お湯が出たらいい」との職員からの意見で、トイレの改修をきっかけに、洗面台でお湯が使えるよう改善されて、利用者にも喜ばれている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価)</p> <p>ワーカーズ・コレクティブひとは全ての会員が労働者であり経営者であるという自立した働き方なので、職場環境等の整備は会員全員で話し合い決定している。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価)</p> <p>色々な研修会等の案内をし各職員にあった研修に参加できるようにしている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価)</p> <p>ケアマネ協議会主催研修会・地域密着型の相互研修などに参加し、他事業所のグループホームへ相互訪問等の活動を通じてサービスの質を向上させている。</p>	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価)</p> <p>事前に在宅時の担当介護支援専門員や事業所・家族に入居に関する情報をお聞きした上で本人にもお話をお聞きしている。又、本人が困っている事、不安な事、要望などがある場合は入居後も安心して暮らしていけるように随時お聞きしている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居申し込み時に見学していただき、家族さんが今、何を求めているか常に心がけ耳を傾けるように努力し、話し合いの場を設けている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) サービス利用を開始される事が本人や家族にとって必要とした場合、同一法人内でのデイサービス利用を含めた対応に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) お互いに尊敬の気持ちを持って接することが出来るように努めている。一緒に楽しんだり笑ったり過ごすことができている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) たびたび訪れてくれる家族と一緒に食事をしたり、遠くにいる家族に泊まっていたいでいる。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人の生活歴を把握し、なじみの人が訪問しやすい雰囲気作りや入居前に利用していた介護サービスを利用することもある。 (外部評価) 息子さんが来られ、ドライブや外食を楽しまれている方もいる。詩吟の教室に通われていた方は、「歩いて詩吟に行きたい」と、希望されており、現在、熱心に歩行練習を行なっておられる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 相性や身体状況を考慮し居間の座席など工夫している。良好な関係の時はもちろん、不穏な雰囲気になりそうな時には、関わり方で回避できるよう努めている。居間で過ごす時間を大切にし、できる限り居間で過ごせるように声掛けを行っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービス利用が終了しても家族が新聞で折ったゴミ袋を持って定期的に訪問して下さりその折に色々な相談を受けている。運営推進会議のメンバーにもなって頂いている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) その時々を言葉を聴き記録し、職員間で情報の共有を行っている。意思表示が困難な場合、職員本位にならないように職員間で意見交換しながら家族の意向も取り入れ検討している。 (外部評価) 入居時は、ご本人やご家族から情報を得て、暮らし方の希望や意向を探っておられる。入居後は、日々の記録や会話の中からも情報を得よう努めておられる。「退屈な」と言われる方には、入居前利用していた法人のデイサービスに週に1回、出かけられるよう支援され、とても喜ばれており、ご本人は、おしゃれをして出かけられるようだ。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人にお聞きしたり、家族へ情報提供をお願いしている。入居前の介護サービス等へも情報提供をお願いする。多方面から生活歴などを把握し記録し、職員間で情報を共有している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 個人記録を充実し、毎日の一人ひとりの生活リズムを把握できるように努めている。また、有する力量にあったできることを知る為、定期的に個々のアセスメントをしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 本人・家族・職員・医療関係者などに意見を求め作成している。また、ケアカンファレンスで定期的にケア目標を見直している。(期間は一人ひとりに合わせている)</p> <p>(外部評価) 入居当初は、入居前に利用していた介護事業所やケアマネジャーからの情報も考慮して計画を立てておられる。利用者一人ひとりに担当職員を決めて、1ヶ月ごと職員で話し合いモニタリングして、3ヶ月毎に見直しをされている。計画は、日常生活、身体状況、精神状況に分けてケア内容を記入されている。</p>	<p>利用者の生活のこだわりや願い、暮らし方の希望等についてもさらに探り、地域資源等も活用しながら、利用者の地域の中での暮らしを助けられるような介護計画の作成に向けて取り組まれてほしい。</p>
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 個別の書式を作成し、ケアの目標に添ってケアが実施できているかどうか記録し情報を共有している。カンファレンスで個別の担当者が経過を報告し、意見交換した上でケアの目標の見直しを行っている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 利用者や家族の希望に沿い、通院や外出(散髪やデイサービス)の支援をすることもある。法人内のデイサービスからの利用者の訪問やデイサービスのプログラムを楽しむに行く事もある。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 買い物や事業所行事などへ出かけることができている。また、パンの訪問販売を楽しむにしている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 受診・往診・病院の紹介・訪問看護への指示などかかりつけ医には24時間連絡可能で、安心できる体制が整っている。かかりつけ医は利用者や家族の希望に沿った適切な医療を行っている。	
			(外部評価) 協力医は、月2回の往診のほかにも、時々利用者の様子を見に来てくださっている。事業所から、利用者個々の毎日のバイタルサインや排便の状態、気になることをファックスで訪問看護ステーションに送信しておられ、必要時は、看護師が医師と相談して、電話で報告や指示があるようになっている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 24時間相談可能な訪問看護ステーションと契約している。毎日の健康状態を報告し、いろいろな気づきの相談をして適切な受診や看護を受けられるように支援している。	
			(外部評価)	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 現在はいいないが、入院中は病状の把握ができるように見舞ったり家族へ問い合わせをし、病状が安定すれば家族や利用者とは話し合い、退院に向け医師と相談を行うようにしている。	
			(外部評価)	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化した場合看取りの指針に沿い、家族への説明は繰り返し行っている。家族、かかりつけ医、訪問看護ステーションと一緒にサービス担当者会議を行い方針を共有しチームで取り組んでいる。	
			(外部評価) 事業所は、利用者・ご家族の希望に応じて、「住みなれたところで最期まで過ごしていただきたい」との思いで支援されている。理事長は、「迷うのが家族だ」という考えのもと、状況が変わるごとに主治医や訪問看護と話し合いを持って支援されている。ご家族によっては、「自宅へ連れて帰ろうか」と、迷ったようなこともあったが、ご本人が慣れている事業所で、ご家族が泊まり、一緒に看取られて、ご家族は満足されたようだ。他の利用者は、「ようがんばったな」等とご本人に声をかけてさし上げながら、お別れをされた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変や事故へのマニュアルをケアカンファレンス時確認している。救命救急訓練に参加し実践力を身に付けている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 緊急連絡の訓練や避難経路の確認など行っている。また、災害時、一時避難先として近所をお願いしている。防災グッズは定期的に点検している。	
			(外部評価) 消防署の方の協力を得て、地域の方やご家族にも参加していただき、避難訓練を実施されている。職員が利用者役になり訓練されたり、消火器の使い方を習ったりされた。スプリンクラーを設置し、一時避難場所として、となりの土地を使用できるよう了解を得ておられる。職員の連絡網を作り、管理者は、時々抜き打ちで回す等して、いざという時、機能するか試されることもある。職員は、「台所のガスは使用中はその場を離れない」等、火を出さないことに気を付けておられる。居室のテレビ等は、地震時に倒れないように固定し、高いところへは物を置かないように気を付けている。防災グッズは倉庫に準備されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) ハード的にプライバシーの確保が難しいことは多々あるが、一人ひとりの人格を尊重し、言葉かけや対応を心がけている。	
			(外部評価) 二人部屋は、アコーディオンカーテンで仕切って使用しておられ、これまでは電灯は共同であったが、各場所に電灯を取り付けられた。朝は、お互いにあいさつされ、「寝られましたか」等と言葉を掛け合われるようだ。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 良く話を聴き状況を見極め希望に沿えるよう支援している。ちょっとしたおやつのお菓子やその日に着る洋服選びでも、どれがいいかを聞いて選んでいただける様にしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 共同生活の一定の大きな流れを大切にしながら、できる限り希望に応えるよう努めている。が、人員配置が手薄になる時間帯は困難なこともある。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 散髪は家族と出かけたり訪問理容を利用したりして支援している。服を選んだり肌を整えたり、その時々で支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 下ごしらえを職員と一緒にできることが少なくなっているが、できる範囲の事を行っている。一緒に食事をしている。	
			(外部評価) 献立は、当日の食事担当職員が、利用者の希望や冷蔵庫の中の材料に応じて決めておられ、事業所で食事を作っておられる。煮干で出しを取り、食材は地元の食材・国産品をできるだけ使用するよう努めておられる。利用者からの希望で、お好み焼きを焼いたり、お寿司を出前することもある。調査訪問時には、移動販売車が来て、利用者は、おやつのあるぱんやジャムパン、クリームパン等、それぞれにお好きなパンを買っておられた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量や水分量は確保できる様に記録している。普通食が困難な利用者には必要に応じ介護食にし口から食べる工夫をして、一人ひとりに応じた支援をしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 一人ひとりの支援の方法は異なる。ほぼ自立の方は朝夕の声かけや夜間の義歯洗浄、全介助の方は毎食後、それぞれの支援方法が変わる。ADLの変化でできること、できないことを見極めながら行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個人の記録で排泄パターンを把握し排泄の失敗やオムツの使用を減らし、自立に向けた支援を行っている。オムツ利用の方は、心身の状態や時間帯などでオムツ類の工夫をしている。 (外部評価) トイレを改修したことでトイレは2ヶ所になり、利用者は待つことなく、ゆっくり使えるようになった。職員は、排泄記録をみて、トイレへの声かけや誘導をして、利用者がトイレで排泄できるよう支援されている。介助が必要な方は、便座に座るのを介助した後は、ドアの外で待ち、職員の手が必要になった時に、棚の上の鈴を鳴らしてもらうようにされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 個人の記録で排便のパターンを把握し食事や水分で工夫している。医師の指示のもと、便秘薬も個々に応じて適切に服薬支援している。また、腹圧がかかり排便しやすい姿勢での排泄介助ができています。毎日ラジオ体操を行っている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 週3回が基本であるが、季節・個人の体調・希望に合わせて入浴している。認知症がすすんだ方にも入浴が楽しめるよう入浴剤選びなどで支援している。 (外部評価) 月、水、金曜日を入浴日に決めて入浴支援されている。浴室は深めではあるが、いすを湯船に沈める等して、利用者が安全にくつろぎ、入浴できるよう支援されている。重度の方で一人で湯船に入るのが困難な方には、職員が二人で介助して湯船で温まれるように支援されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 体調や前日の睡眠時間により、休息したり安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬状況を職員は理解できている。また、服薬による変化は記録し確認に努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 気分転換にドライブや散歩、ボランティアさんの三味線やキーボードに合わせて一緒に音楽を楽しむことができるように支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 個人差はあるが、夏祭りなどに家族さんと一緒に参加し外出できるように支援している。	
			(外部評価) 季節に応じて、桜やつつじ、ボタン、藤等を見に外出をされている。職員がおやつや食材の買い物に行かれる時に、一緒に買い物に出かけることもある。法人のデイサービスで三味線の演奏会等がある時には、出かけて楽しまれている。お花見時には、ご家族も一緒に出かけ、お花を見た後、回転寿司で食事して帰られた。	これまでは、「利用者全員で外出すること」に取り組まれていたが、理事長は、「個々の希望に沿った個別の外出支援にも取り組みたい」と考えておられる。職員は、「利用者から行きたいところ等も引き出し、お天気の良い時にはもっと出かけていきたい」と話しておられた。今後さらに、利用者の希望等も引き出しながら、いろいろなところに出かけて、利用者個々の生活の拡がりを支援していかれてほしい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) キーパーソンと相談の上、希望・能力に合わせて支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 自分から手紙を書いたり電話をかけたりはしないが家族からの手紙や電話を楽しみにしていて、手紙を大切にされている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 室温や湿度には特に注意を払って記録し、生活や季節を感じられ居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p> <p>(外部評価) 事業所は、民家改修型で敷居や段差のある造りで、昔なじみの外廊下の間取りになっている。間口のうち半間分は敷居のままで、半間分は段差をなくして、車いすが通りやすいようにされていたり、風呂場は補助の板を置き、段差解消に工夫されている。居間のテーブルの下は、ホットカーペットを敷いて、足元が暖かく過ごせるようになっている。居間の壁には、季節が感じられるよう紅葉やいちよう、栗の飾り付けがされていた。利用者は、日中、居間で過ごすことが多く、調査訪問時、居間でお茶を飲みながら団欒されており、「いらっしゃい」と笑顔で迎えてくださった。玄関先にはパンジーや葉牡丹を植えておられた。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 利用者さん同志のその時々状況に合わせて居間での座り方を工夫している。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 本人・家族と相談の上使い慣れた好みの家具や寝具を整え居心地よく過ごせるように工夫している。</p> <p>(外部評価) 各部屋の壁にはコルクボードをかけておられ、それぞれ利用者の笑顔の写真を飾っておられ、又、職員がプレゼントしたシクラメンの鉢植えを飾っておられた。夜間、電灯を付けたまま休みたい方には、電灯の傘に布で覆いをして、他に明るさが漏れないようにされていた。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 手すりの設置やトイレ、洗面所の改修により安全な生活が送れるよう工夫している。</p>	